

# 山口県山口市におけるコミュニティバスによるマイカーから公共交通への 利用転換実証実験の概要

(平成13年10月～平成15年9月)

## 背景

山口市は、幹線道路沿いの農地や丘陵地の宅地化により郊外に人口が流出し、広い市域に居住地、職場、商業施設、公共・公益施設が分散しているため、移動手段は自動車中心の都市構造となっている。このため、主要道路における朝夕の渋滞解消が課題となっている。一方、CO2排出による地球温暖化等の環境問題を考慮し、マイカーに過度に依存することのない「地域で支え、育てる」交通システムが求められている。

## 実験の概要

1. 大内ルート、吉敷・湯田ルート、川西ルートの3ルートにおいて、小型巡回バスを運行
2. 低運賃(1乗車100円)のわかりやすく利用しやすい運賃に設定
3. 定時運行のために、PTPSの導入、交差点の改良や道路拡幅の実施

## 100円バス実験対象区間



関係行政機関等によるTDM実験への支援(中国運輸局、中国地方整備局、山口県警察本部)

## 実験の成果

平成15年9月の一便平均乗車が吉敷・湯田ルート13.8人、大内ルート11.2人(29人乗)、川西ルート11.5人(14人乗)と、それぞれ10人、10人、6人という目標値を上回る。

マイカーからの利用転換が図られ、全体から見れば僅かではあるが交通量が減少し、PTPSの設置と相まって渋滞の改善に貢献した。

実験終了後も、運行システムの改善を図りながら実証運行を継続中。